



## 年頭のごあいさつ

一般財団法人 全国市町村振興協会  
理事長 坂本 森 男

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当協会の業務運営につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、西日本から東日本、東北地方の広い範囲での集中豪雨により熊本県、山形県など各地で甚大な被害をもたらした「令和2年豪雨」が発生しました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに被害にあわれた方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

一昨年は台風15号や19号が上陸し甚大な被害をもたらしましたが、昨年は2008年以来12年ぶりに台風の上陸が一つもありませんでした。一方、線状降水帯の連続形成による集中豪雨については、令和2年豪雨、令和元年8月九州北部豪雨、平成30年7月西日本豪雨、平成29年7月九州北部豪雨と毎年発生し、甚大な被害をもたらしています。台風、降水、降雪、猛暑などの気象災害はある程度予想できるものです。「備え」を無駄と思わず、「空振り」を恐れず、日々の防災、減災の取り組みを怠りなく進めることが肝心の思いを強くしています。

さて、世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、世界に未曾有の経済的および社会的影響を与えた昨年、特に各国政府は旅行の制限や厳格な検疫要件の実施など、さまざまな強制的な措置をとっておりました。わが国では特定地域からの入国制限、入国管理の強化や私たちの働き方への影響（テレワーク、リモート会議等）、日常生活に計り知れない影響を及ぼし、買い物の仕方から人との関わり方まで消費者行動が変化しました。

政府も「新型コロナウイルス対策」をいろいろ講じてきましたが、昨年末から第3波による感染が拡大し、新規陽性者数、重症者数も過去最多を更新し続けています。新年早々の1月7日には2度目の「緊急事態宣言」が発出されました。経済のダメージを極力抑えつつ感染を抑制し、医療体制の確保を図るという難しい選択をせざるを得ない状況ではありますが、一刻も早く抗ウイルス薬、ワクチンの開発、普及を図られ、できる限りの早期収束を願うばかりです。

そのような中、昨年のサマージャンボ宝くじ等の売上につきましては、8年ぶりに前年を上回る販売実績となり、ハロウィンジャンボ宝くじ等につきましても、前年を上回る結果となりました。

また、宝くじ公式サイトでのインターネット販売開始から約2年が経過し、公式サイトでの会員数は順調に数を伸ばしております。これを好機とし、これまで以上に地方協会の皆様や市町村関係者の皆様と連携を強化し、これからの時代に合った広報活動を展開して参りたいと考えております。

引き続き全国的な市町村の発展に寄与するための諸事業に取り組んで参りますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のますますのご健勝と全国の市町村及び市町村振興協会のさらなるご発展を心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。